

# 年金資産の運用について

**令和7年度の運用状況**  
《令和7年4月～令和8年2月》

令和8年  
2月末

年金資産残高 …… 691億円  
運用利回り …… 7.91%

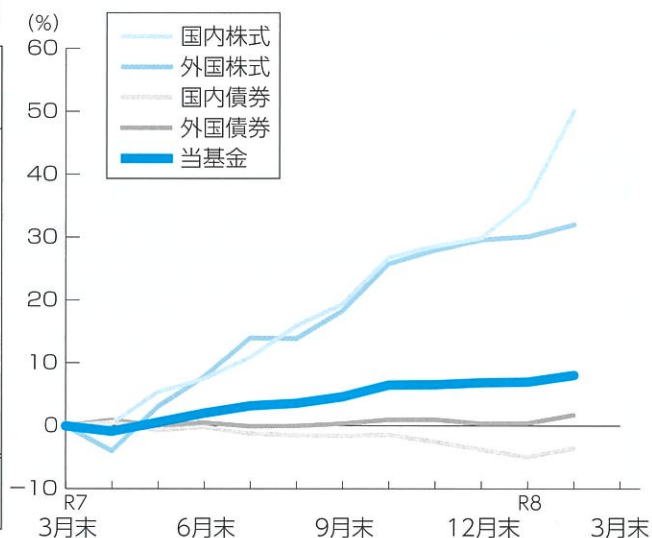
令和7年度の国内株式は、米国との関税合意や高市政権発足、2月には衆議院選挙での自民党圧勝を受けて大幅に上昇しました。外国株式も貿易摩擦の緩和やAI・半導体関連株の大幅な上昇を背景に堅調に推移し、通期の収益率は国内外ともに30%を超えるプラスとなっています。国内債券は、日銀の政策金利引き上げ観測を受けて利回りが上昇し、債券価格が下落したことから通期で3.60%のマイナス。一方の外国債券は、金利引き下げと円安の影響で円ベースでは良好な収益率ですが、為替ヘッジ付きのベンチマークはヘッジコストの負担から通期で1.72%のプラスに留まりました。

このような市場環境のもと、生命保険の一般勘定やオルタナティブ資産への投資がプラスに寄与し、当基金の2月末までの運用実績は、収益率が7.91%、資産額は690.7億円となり、複合ベンチマークを2.26%上回りました。

足元では、イスラエルと米国によるイランへの軍事行動により先行き不透明感が強まり、原油価格が高騰し株式市場は下落しています。今後も運用環境の変化が予想されることから、情報収集に努めるとともに、引き続きリスクを抑制した運用を行ってまいります。

## ●当基金の運用実績と市場収益率との比較

	基金運用実績 (残高・利回り)	ベンチマーク
国内株式	15億円 40.45%	TOPIX(配当込) 50.16%
外国株式	143億円 24.83%	MSCI-kokusai 32.06%
国内債券	139億円 0.47%	NOMURA-BPI -3.60%
外国債券	199億円 1.45%	FTSE-WGBI exJ 1.72%
オルタナティブ	195億円 6.69%	東京レポレート 0.53%
基金計	691億円 7.91%	※参考 予定利回り 2.50%



## ●資産運用の基本方針(概要)

基金制度は、掛金収入と運用収益で将来の給付を賄う仕組みです。掛金負担の安定及び効率的かつ長期的に運用収益を確保することを目的に、基本方針を策定しています。

最小のリスクで制度上の予定利回りを達成可能な政策的資産構成割合(下図参照)を定め、信託銀行や投資顧問会社等に分散して運用を委託し、債券市場や株式市場の他オルタナティブ投資で運用を行っています。



●国株 ●外株 ●外株ヘッジ付 ●国債(生保一般勘定含む) ●外債ヘッジ付 ●短期資金 ●オルタナティブ

\*オルタナティブ：株式や債券といった伝統的資産以外の資産の総称で、伝統的資産と異なる収益構造により市場の下落局面でも安定した収益が期待できます。ファンドオブファンズ、インフラ投資、保険リンク証券等が代表例です。

## ●資産運用委員会の開催状況

下記日程で開催いたしました。詳細はホームページをご覧ください。

- ・第1回 令和7年6月20日(金)
- ・第2回 令和7年11月20日(木)